

2019年1-3月期四半期別GDP速報（1次QE）公表に際しての  
茂木経済財政政策担当大臣談話

2019年5月20日（月）

1. 本日公表の2019年1-3月期GDP1次速報では、実質成長率は、前期比プラス0.5%、年率に換算するとプラス2.1%と2期連続のプラスとなった。

公共投資が昨年度補正予算等の執行を背景に5期ぶりにプラスとなる一方で、中国経済の減速等を背景に、輸出が2期ぶりのマイナス、設備投資についても、製造業を中心に先送りの動きが見られることなどから、今期は小幅なマイナスとなった。また、個人消費については、今期はおおむね横ばいとなった。

名目成長率については、前期比プラス0.8%、年率に換算するとプラス3.3%と2期連続のプラスとなり、GDPデフレーターも前期比0.3%のプラスとなった。

また、2018年度を通してみれば、実質成長率はプラス0.6%、名目成長率はプラス0.5%と4年度連続で名目、実質ともにプラスの成長となった。

2. 我が国経済は、中国経済の減速などから輸出の伸びが鈍化し、製造業を中心とした生産活動に弱さが続いているが、雇用者報酬は前年比で増加が続くなど雇用・所得環境の改善や、高い水準にある企業収益など内需を支えるファンダメンタルズはしっかりしている。個人消費や設備投資も前期の反動によるところもあり、また、昨年度補正予算や今年度予算の執行による公共投資の増加も期待され、内需の増加傾向は崩れていないと考えている。

3. 今後とも、通商問題の動向が世界経済に与える影響や金融資本市場の変動の影響等を十分注視しつつ、2兆円規模の「臨時・特別の措置」を含む今年度予算等を迅速かつ着実に執行し、経済財政運営に万全を期していく。

（以上）